

「ものの値段が決まるしくみを知ろう」※

— 金銭や経済の基本的なしくみに対する理解を深める —

香川県丸亀市立城乾小学校教諭 宮西文彦

事例の 位置付け	実施学年	第4学年	☆第4学年～第6学年
	教科等	特別活動	☆特別活動
	単元名	日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。	

ねらい

- 1 ものに値段がつく仕組みを知ることによって、金銭に対する理解を深めさせる。
- 2 金銭に対する理解を深め、ものや金銭を大切にしたい衣食住の基本的な生活習慣を身につけさせる。

展開の特色

- 1 工場で作られた製品やスーパー・マーケットなどのプライベートブランド、市場の野菜などを例にとり、ものに値段がどのようにつけられているのか、予想を立てながら、考える。
- 2 問題やお話を書き込んだテキスト兼ノートである教材を用い、仮説を設けて検証する方法による授業を行う※。
- 3 授業書形式をとっていることにより、だれでも手軽に授業の追試が可能である。

構成

- 第1次 わだんのきまるしくみ……………(1時間) <本時>
- 第2次 単価……………(2時間)
- 第3次 安売り缶ジュースのひみつ ……(3時間)

本時の展開

**本時の目標** 工場で作られた製品は卸売り業者を通して小売店に流通していて、それぞれでもうけを出しながら、値段が決まっていくことがわかる。

	学習内容	学習活動	教師の支援、指導上の留意点	資料
導入	1 品物の値段をだれが決めたのかを考える。	① 予想する。 ② 予想した理由を発表する。 ③ 討論する。 ④ お話を読んで確認する。	・考えやすいように選択肢を提示する。 ・工場から卸売り、小売店への流れを分かりやすい図にして提示する。	・工場から卸売り、小売店への流れの図
追究①	2 安売りで損をしているところがあるか、考える。	① 予想する。 ② 予想した理由を発表する。 ③ 討論する。 ④ お話を読んで確認する。	・問題の意味が分かりにくい児童には「もうけのないところがあるか」と問いかけ、問題の意味がイメージできるように配慮する。	・作って売るしくみの図
追究②	3 消費者が直接工場に品物を買に行けるか、考える。	① 予想する。 ② 予想した理由を発表する。 ③ 討論する。 ④ お話を読んで確認する。		
追究③	4 卸売りや小売店で必要な費用も値段のなかに含まれていたが、工場の値段はだれが決めたのか予想する。	① 予想する。 ② 予想した理由を発表する。 ③ 討論する。 ④ お話を読んで確認する。	・必要経費について分かりやすく説明するための図を提示する。	・必要経費の図
まとめ	5 感想文を書く。	分かったことや思ったことを感想文にまとめる。	・値段が決められていく過程について、自分なりに思ったことが書けたか確認をする。	・感想文用紙

評価の観点

ものが豊かな社会のなかで、身の回りにあふれている品物にどのような経緯で値段がつけられているのか、その仕組みを知ること、金銭について、正しい認識をもち、身の回りのものを大切に扱う意識を高めることができたか。

memo・注 ※この授業プランは、石原清貴氏(香川県さぬき市立志度小学校末分校教諭)によるものである。




---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

《教材》

授業プラン  
経済学入門

もののねだん

第I部 ねだんのきまるしくみ

[しつもん1]

お店やスーパーマーケットに行くと、いろいろな品物がい  
ろいろなねだんで売られています。これらの品物のねだん  
は、いったいどのようにして決められているのだと思います  
か。

- ア お店やスーパーの人が、かかってに決めている。
- イ 品物を作った人(工場の人)がおよそのねだんを決  
め、それをもとにお店の人が決めている。
- ウ 品物を作った人と、お店の人がねだんを相談して決  
めている。
- エ 作った人が決めてしまっている。

1

[お話] ー工場で作られたもののねだんー

テレビやパソコンの commercials で「メーカー希望小売  
価格」というのを見たことはありませんか。電気屋さんのチラシ  
などを見ていると、希望小売価格10万円のテレビが、8万  
9,000円とかに値引きされて売られているようなことがあり  
ます。セールするときなんかには、5万9,800円なんてねだ  
んがついていることもあります。

この「メーカー希望小売価格」というのはメーカー(品物  
を作った会社)が、「このくらいで売ってほしいな」と、はじめ  
から決めているねだんなのです。しかし、これよりやすく売  
られるのがふつうです。

ですから、お店で売られている品物のうち、工場で作られ  
たもののねだんは、作った会社がおよそのねだんを決め、  
それをもとにお店の人がじっさいに売り出すねだんを決め  
ていると言っていいでしょう。

「しつもん2」

工場で作られているものにはたいいてい、メーカー希望小  
売価格というのがついています。セールなどでないとき  
でも、そのねだんよりも安く売られているのがふつうです。  
やすく売っているということは、それだけそんをしている人(会  
社やお店)があるわけですね。

では、だれ(どこ)が、安く売った分のそんをしているの  
でしょう。

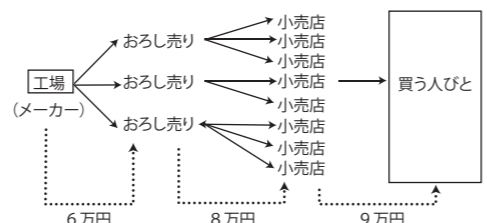
(もうけがないところがあるでしょうか)

- ア 品物を作った会社(工場)
- イ 品物をお店
- ウ 工場とお店の両方
- エ どこ(だれ)もそんをしていない

2

[お話] ー作って売るしくみー

工場は、作った品物を「おろし売り」とよばれるお店に、何  
十台、何百台と、ドサッと売ります。このおろし売りの店には、  
ふつうわたしたちは買いに行けません。お店(小売店)の人  
だけが買いに行けるのです。小売店は、おろし売りから品  
物をまとめて買って、店にならべて、わたしたち(買う人)に  
売ります。



さて、それぞれが売るときのねだんを見てください。  
工場は10万円で売ってほしいのですが、じつは、おろし売  
りに6万円で売っています。そして、おろし売りは6万円で  
買った品物を、8万円で小売店に売っています。さらに小売  
店は、8万円で買った品物を、9万円で、わたしたちに売っ  
ているのです。

わたしたちは、メーカー希望小売価格10万円の品物を9  
万円で買い、とくした気分になります。

つまり、だれもそんしていないのです。

[しつもん3]

おろし売りには、わたしたちが買いに行けませんが、ちょ  
くせつ、工場に買いにいけば6万円で買うことができる  
でしょうか。

- ア できる
- イ できない

3

[お話]

わたしたちが個人で工場に行っても、品物を買うことはで  
きません。それは、工場が、「売る」という仕事を、おろし売  
りや小売店にまかしているからなのです。

おろし売りや小売店では、売るために品物をはこんだりな  
らべたりするのに、手間やお金がかかるため、もうけがひつ  
ようなのです。ただし、最近では、わたしたち個人に小  
売店(会員)になってもらったことにより、小売店に売ると  
同じくらいにねだんでやすく売る、大きなお店(おろし売  
り)もあらわれてきました。

[質問4]

工場で作る品物は、おろし売りや小売店で必要な費用も  
ふくまれて、決まってくるようになりました。では、工場が  
さいしょにおろし売りに売る6万円というねだんはどうやっ  
て決まったのでしょうか。

- ア 工場の社長がかかってに決めている。
- イ おろし売りの人と、工場がそうだんして決めている。
- ウ ものを作るのに必要なお金と、工場のもうけから決めて  
いる。

4

[お話] ー市場とせりー

やさいや魚のような、新鮮食品は、たいいてい「市場」とい  
うところで「せり」をして、ねだんが決まります。せりとい  
うのは「競る」  
つまり競争するという意味です。

農家の人は、その日とれたダイコンやハクサイなどを市  
場に運びます。市場には、たくさんの仲買人(おろし売りのよ  
うな店の人)や、八百屋の人たちが集まっていて、そのダイ  
コンやハクサイに、自分で買いたいねだんをつけます。たく  
さんの人がねだんをつけた中で、1番高いねだんをつけた  
人が、その品物を買うことができます。

いい品物を作れば、それだけそれを買いたい人がふえ、  
高いねだんがつけられるということです。このようにしてね  
だんを決める方法を「せり」と言い、品物をせりに出すこと  
を「せりに出す」、1番高いねだんをつけて買い取ること  
を「せり落とす」と言います。

6

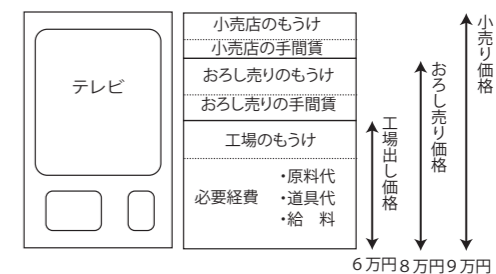
[お話] ー必要経費ー

工場で品物を作るのに、ぜったいに必要なものがありま  
す。

- ① 原料代
- ② 道具(きかい)代
- ③ はたらく人にはらう給料

の3つです。これらは、必要経費といわれます。それに、かい  
しゃ(こうじょう)のもうけがかわって、もののねだんが決ま  
るのです。

図にあらわすと、次のようになります。



[しつもん5]

お店やスーパーで売っているものには、工場で作られて  
いるもののほかに、やさいや魚、肉なども売られています。  
このような、新鮮食品といわれるもののねだんは、どうやっ  
て決まっているのでしょうか。やさいで考えてみて下さい。

- ア 農家の人がかかってに決めている。
- イ 売り手(お店)が決めている。
- ウ 農家と売り手がそうだんして決めている。
- エ その他

5

第II部 単価

[しつもん1]

みのる君の家では、ある日、お父さんが  
「うまそうな和歌山みかんを、5kg 1,000円で買ってき  
たぞ。」と言って帰ってきました。たまたまその日、お母さんも  
おいしい愛媛みかんを8kg 1,760円で買ってきたので  
す。

お父さんは、自分が買ってきた和歌山みかんがおいしい  
と言いつつ、お母さんは愛媛みかんの方がおいしいにきまっ  
ていて、2人もゆずらないのです。そこで、みんなで  
両方のみかんを食べくらべてみたのですが、どちらもあまく  
おいしいのです。

しかし、お父さんもお母さんも意地になって、自分が  
買ってきたみかんの方が上等だと言いつつ、そこで、  
ねだんでくらべようということになりました。いったい、ど  
ちらのみかんが上等なのでしょう。

[よそう]

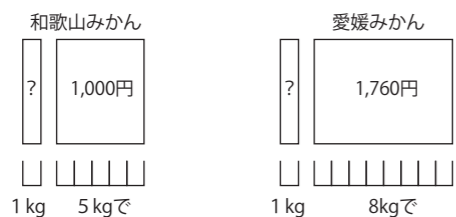
- ア 和歌山みかん (5kgで1,000円)
- イ 愛媛みかん (8kgで1,760円)

どうしたら、どちらのみかんが上等か、ねだんをくらべるこ  
とができると思いますか。考えがうかんだ人は、みんなにお  
話してください。

7

【お話】—どちらの値段が高い?—

5kg 1,000円のみかんと、8kg 1,760円のみかんのどちらがねだんが高くて上等かをくらべるには、どちらも、1kgあたりのねだんを出してみればよいのです。



式( ) 式( )  
答え( ) 答え( )

【しつもん3】

両方のみかんと、1kgあたりのねだん(kgあたりの単価)でくらべてみると、  
・和歌山みかん ( 円/kg)  
・愛媛みかん ( 円/kg)  
となり、[ ]の方が、ねだんが高くて上等のように思われます。

さて、ねだんだけで、上等かどうかは決められるのでしょうか。考えを発表しましょう。

8

【お話】—ねだんの高いみかんは、本当においしいの?—

みかん園のおじさんに聞いてみました。「等級の高い(上等な)みかんは、味がよく、形や色つやのととのったものだ。でも、味だけでいうと、ふつうのみかんと上等なみかんにはそんなに差はないよ。」

つまり、味よりも形や色が、上等かどうかを決めるものになっているということです。さらに、「味だけでえらぶのなら、ねだんの高いみかんを買うことはないよ。見た目はでこぼこしていても、平べったくて皮がうすいものをさがすことじゃな。」と教えてくれました。

—たべもののねだんと上等—

さて、その品物が上等かどうか、そしてそれがちゃんとしたねだんになっているかをほんだんするのはずいぶんむずかしい問題です。

たとえば、おいしいものが上等だと考える人がいるかと思えば、色つやがきれいだという人や、形を気にする人もいます。自分の家で食べるのには、味がいいものと考える人も、おくりものにするときには、形や色つやが気になります。このように、ひとくちに「上等」といっても、いろいろな考え方があからです。

みかんのようにくだものでいけば、ふつうは形がよくて、色つやのよいものが、きつとおいしにちがいないというよそようにしたがって、「上等」が決められることが多いのです。そして、そんな作物ほど高いねだんがついて取り引きされるのです。

ですから農家の人は、味をよくしようと考えるよりも、形や色つやのよいものを作ろうと努力します。つまり、「見た目がよい=味がよい=上等=ねだんが高い」とは言えなくなってきているのです。

9

【お話】—ねだんのやすいガソリンはどっち—

近所のスタンドでは、3,240円÷36ℓ=90円/ℓ  
国道のスタンドでは、3,990円÷42ℓ=95円/ℓ  
となり、近所のスタンドの方が、1リットルあたり5円安いという事になります。

【しつもん4】

それでは、近くのガソリンスタンドは、国道のガソリンスタンドに比べて、しつが悪いガソリンを売っているのでしょうか。

【よそう】  
ア しつが悪い  
イ しつは変わらない

11

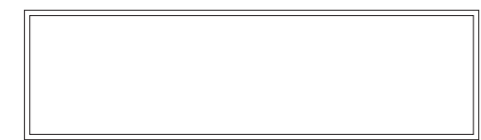
【しつもん3】

ある日の夕方、さとの君のお父さんが、2まいのレシートを見くらべて考えこんでいました。それは、ガソリンスタンドのレシートでした。

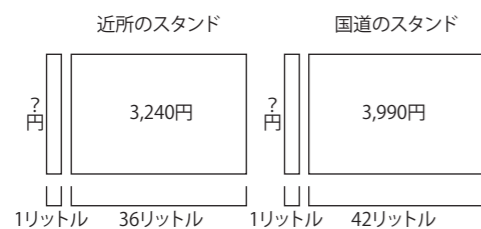
・近所のスタンドは、36リットルで、3,240円  
・国道のスタンドは、42リットルで、3,990円

お父さんが考えこんでいることは、いったいどちらのスタンドのガソリンが安くてとくなのかということです。

さて、どうやったら、どちらのスタンドのガソリンが安いのかをくらべるのできるのでしょうか。自分の考えを発表して下さい。



ヒント



10

【お話】—価格協定—

日本のガソリンスタンドのガソリンは、地方によっていくらかのちがいはありますが、石油の会社やスタンドによって、ねだんが大きくちがうことがほとんどありません。ちがっても、1リットルあたり5円くらいのものでした。また、ガソリンのしつも変わらないといっていました。

これは、ガソリンを作る会社が、ねだんを同じにするやくそく(価格協定)をしていて、ガソリンスタンドがかってに安売りなどできないようなしくみにしているからです。

でも、お客さんにたくさん来てもらいたいと考えているのは、どこのスタンドも同じことです。そこで、それぞれのスタンドでは、安売りをしない代わりに、ティッシュペーパーやぬいぐるみなどの景品をつけたり、車のまどをふいたりするサービスを、たくさんのお客さんに来てもらう努力をしているのです。

【質問5】

日本では、ガソリンのようにねだんをしつとをだいたい同じにして、安売りをしないもの(価格協定されているもの)がほかにいくつありますか。しつていたらみんなに教えてあげて下さい。



12

【お話】—価格協定と価格破壊—

ガソリンのほかに価格協定されているものには、お酒やたばこがあります。これらのねだんは、国が決めていて、そのもうけの一部が、国の税金になっています。また、さんぱつ料金もたいいの店で同じになっています。これは、さんぱつ屋さんが入っているグループ(組合)で価格協定をしているからです。

ところが最近では、ガソリンスタンドの中に、それでも安売りをするところがあらわれてきました。ガソリンを作る会社がスタンドに売るねだんが安くならないのに、そんなに安売りをしてもスタンドはやっていけるのでしょうか。

たいていの場合、ガソリンを安くする代わりに、窓をふいたりはいざらをそうじしたりするサービスをなくして、そのために必要だった従業員をへらし、必要経費を少なくする努力をしています。でも、それでもやっていけなくなったスタンドが、だんだんとつぶれていっている地方もあるようです。

このように、今までだいたい決められていたねだんがくずれて、安くなるようなできごとが、ガソリンに限らずいろいろなものでおこっています。これは価格破壊といわれています。価格破壊が進むと、わたしたちにとってはありがたいのですが、お店の人はたいへんです。

13